

小堀京仏具工房・金箔押し体験

参加大使:塩山司さん,瀬戸口彩乃さん

朱塗りの杯の内側に金箔を押し体験です。

- ①金箔を6つに切っていきます。
- ②綿で杯に接着剤を塗ります。
- ③別の綿で丁寧に接着剤をふき取り、金箔1枚がつくくらいにします。
- ④金箔をのせていきます。
- ⑤綿で金箔を優しく押さえ、密着させていきます。



- ⑥不要な金箔をはらい落としたら杯の完成です!
4~5日置いてから使いましょ。



小堀京仏具工房では、工房の見学や金箔押し体験など、京仏具の伝統技術を継承していくために、様々な取組をされています。皆さんも気軽に京仏具に触れてみてください。



(左から遠藤さん,瀬戸口さん,塩山さん,小堀社長)

金箔押し体験の感想は?

京仏具は人の心を安らかにしてくれることを知り、この伝統文化をもっと伝えていきたいです。



金箔に職人さんのこだわりを感じることができました。



体験を通じて京仏具の伝統技術の良さを感じてください!



紫織庵・手摺り友禅染体験

参加大使:大塚葵さん,岡本美鈴さん

今回、大使は木村染工場(ミュージアムロードでは紫織庵)で手摺り友禅染めを体験しました。

- ①まずは映像を見て、摺り友禅の工程を学びます。
- ②次に、用意していただいた舞妓や金閣寺の型紙と刷毛を使って、色紙に図柄を彩色していきます。型紙を押さえながら型抜きされた部分を摺ると、色紙に色が写ります。



- ③青・赤・黄色など、色によって異なる型紙を使用するため、6~7枚の型を順に摺ります。力加減により、色の濃淡や線の太細が表現できます。



紫織庵では、祇園祭の「屏風祭」の再現や、長じゅばん・下絵などが常設展示されています。いつでも京都の伝統的な染・織物の文化に親しむことができますよ。



(左から岡本さん,大塚さん,木村さん(木村染工場))

手摺り友禅染体験の感想は?

型友禅は大変な作業を経てつくられているということをもっと伝えていきたいです。



「ぼかし」などの技術を重ねてつくるところに、人の思いも重なっていると感じました。



体験を通じて、子どもたちには「ほんもの」のモノや技術を知ってほしいです。

